

浜下り 各集落で大盛り上がり

17日の安木屋場の浜下りを皮切りに、22日には嘉渡、秋名・幾里、円の浜下りがありました。

安木屋場は数年ぶりの漁港での開催だと伺い、それを祝うかのような快晴の下、お楽しみ抽選会や八月踊りがあり、見事な六調で閉められました。

22日は、少し雨にも降られ、どうなることかと心配されましたが、嘉渡、秋名・幾里、円ともに、スイカ割りや舟漕ぎ、宴会、八月踊りなどを、集落の個性が光る軽妙な進行により、老若男女問わず浜下れを楽しんでいらっしゃいました。中学生も、海で存分に満喫している姿が見られました。

各集落の方々の、伝統を大切に守ろうとする後ろ姿に、きっと生徒の皆さんは、次の担い手として決意してくれたことでしょう。また、地域の方々から小中学校の教職員にあたたかいお声がけや対応をしていただき、改めて荒場地区の皆様へ感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。次の行事も楽しみにしています。



BLS 教育・学級PTA

7月9日(水)に、家庭教育学級の一環として、生徒と保護者の皆様がBLS(一次救命処置)教育を受講しました。龍郷消防分署からお二人の講師をお招きし、嘉渡在住で本校卒業生の牧原千博さんからわかりやすい説明をいただきました。心肺蘇生の実技では、戸惑いながらも親子で学び合い貴重な体験となりました。多数の御参加のおかげで、学級PTAも円滑に終了しました。夏休みにもしものことがあっても、地域一丸となって命を守り合いましょう。



ハブに関する調査

6月13日(金)に、奄美自然観察の森の川畑力さんをお招きして、探究活動でハブについて調査しているハブ班がインタビューしました。川畑さんは、生徒たちが事前に考えてきた質問に、一つ一つ丁寧に答えてくださり、生徒たちはさらに深掘りした質問を行い、調査を充実させていました。インタビューをする人、撮影をして記録する人、タブレットに文字で記録をする人など、役割分担をしていて、インタビューの仕方もすばらしかったです。調査の中間発表会は7月12日(土)でした。次号で御紹介します。



島口の調査

6月16日(月)に、東美佐夫さんをお招きして、探究活動で島口について調査している郷土班が、東さんからたくさんのお話を学びました。東さんは元奄美市副市長で、行政・教育で大変御活躍されている方です。今回は、生徒たちが図書室の蔵書である東さん著書の「島口むんばなし」からたどり着き、インタビューをお願いしたところ、快くお引き受けくださり実現しました。スライドを用意して、生徒たちに分かりやすく説明をしてくださいました。御協力に感謝します。



8月の主な行事

- 1(金) 出校日 体育大会打合せ
- 13(水)~15(金) 学校閉庁日
- 21(木) 出校日



9月の主な行事

- 1(月) 始業式、いじめ問題を考える週間(〜5日)
- 2(火) 第2回3年実力テスト(〜3日)
- 22(月) 体育大会予行
- 28(日) 体育大会
- 29(月) 振替休日(体育大会順延日)
- ★ 待ちに待った夏休みがやってきます。事故やけがに気を付け、有意義な夏休みを過ごしてください。課題は計画的に!



「励まし」ではなく「勇気づけ」を

—40年越しに届いた中島みゆきの声

校長 紙屋 貴志

1983年、高校生だった私は、ラジオから流れてきた中島みゆきの《ファイト!》を初めて耳にした。クラスの友人が「この曲、励まされないよね」とつぶやいたのを、今でも不思議と覚えている。確かにあの歌には、「頑張れ」や「きつとうまくいく」といった、わかりやすい応援の言葉はなかった。けれど私は、その静かで深く、まっすぐな歌声に、心を強く掴まれたままだった。

あれから40年以上が経った。なぜあの歌があれほど心に残ったのか、その理由がようやくわかった気がする。きっかけは、ようやく手に取った一冊の本——『嫌われる勇気』だった。

アドラー心理学の中核にある「勇気づけ」という思想。それはまさに、《ファイト!》が私に与えてくれたものだった。あの歌は、社会の不条理や差別、痛みを真正面から描いている。だが、そこにあるのは「被害者意識」ではない。どんな状況にあっても、自分の価値を信じ、たとえ震えながらも前に進むとする人間の姿だ。

〈冷たい水の中をふるえながらのぼってゆけ〉——この一節に込められたのは、困難な現実を受け止め、それでも生き抜こうとする意志。アドラーの「横の関係」、すなわち、他者を支配せず、対等な存在として尊重し合う姿勢とも響き合っている。

〈闘う君の唄を 闘わない奴等が笑うだろう〉というフレーズにも、他者との比較や承認を超え、自分の信じる道を選ぶ人への深い共感がある。それは、「励まし」ではなく、「あなたにもできる」とそっと背中を押す「勇気づけ」に他ならない。

『嫌われる勇気』は、「変わらない」のではなく、「変わらないことを選んでいく」と語る。初めはその言葉に戸惑いもあったが、《ファイト!》の登場人物たちも、決して特別な力を持つわけではない。ただ、震えながらも一歩を踏み出そうとする「勇気」を持った普通の人々だ。その姿に、私は何度も救われてきた。

あの歌が私の心に40年以上も残り続けた理由——それは、単なる「励まし」ではなく、静かに寄り添いながら力を与える「勇気づけ」の歌だったからだ。そして、そのことにより、気づくまでに、私は一冊の本と出会い、この歳になるまでの時間を必要としたのだった。